

# 自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 80

2016 March

- 企画展「在伯同胞活動実況大写真帖」  
—竹下増次郎、スラジル日本移民を写す—
- 25周年イベント(秋・冬)報告
- 第16回社会科自由研究作品展報告
- 『馬場辰猪 日記と遺稿』刊行に寄せて

自由は土佐の山間より  
 認 自由民権記念館 25周年

## リレーエッセイ 原点再確認の場

私の机上に「自由のともしび」第66号(二〇〇九年七月)があります。そこに私が当館の館長に就任した時のあいさつ文「館長に就任して」が載っています。「課題山積」とあります。あれから七年経ちました。あの時指摘した諸課題を少しは解消したかどうかと考えると、内心忸怩たるものがあります。

明治一〇年、植木枝盛たちが言論闘争としての自由民権運動を開始するにあたり、「自由は土佐の山間より発したり」と言われるように努力しようと県民に呼びかけました。彼らの認識によれば、明治維新は支配者の交代に過ぎず、江戸時代に虐げられた人民の権利はいささかも増さなかった。いま必要な改革は、ごく普通の人が国の主人公となる国家の建設だということです。

自由民権運動は日本で最初の民主化運動(参政権獲得運動)です。民主化運動は、自分たちの運命・自分たちの社会の運命は、自分たちで決めるといふ自治の精神(自己統治の思想)に基礎を持ちます。運動の担い手は、現在で言うところ

のことは選挙における投票率の低さは運動しているように思います。最近では、昨年一月に行われた高知県知事選挙は無投票となり、高知市長選挙の投票率は二八・九三%でした。特に市長選挙において二〇代の投票率は一四・九七%でした。他の地域ならともかく、高知にあつてこの現象はどのように説明されるべきでしょうか。少なくとも自由民権運動の中心地であつたことの誇りと整合性を以て説明するのは困難です。このことは単なる投票率を超えて深刻な問題を孕んでいる気がします。



「ホンモノの夜学会2015」で講演(2015年10月14日)



北見市青少年研修生に展示解説(2010年8月8日)

県詞に採択したのも、そのことを示しているのだらうと思えます。ですから私は、高知の人は、自由民権運動についてさぞかしよく知っているに違いないと思っています。

私は一九年前、縁あつて高知大学に赴任しました。しかし最初の頃、高知の人があまり土佐の自由民権運動について知らないことに戸惑いました。知らなければ自慢のしようがありません。こ

館長 松岡 億一

# 「高知の移民文化発信プロジェクト」



連携企画「高知の移民文化発信プロジェクト」は、高知県下を中心とする複数の文化施設等が、「志を持って故郷を遠く離れ、国内外の新天地に根付いた高知県人の生き方やその地で成し遂げたこと、次世代に引き継がれていったこと」を共通テーマに、各地ゆかりの作品や資料の展示を通して、「高知の移民文化」を紹介します。

## 企画展

# 『在伯同胞活動実況大写真帖』

## 竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す

■期間 2016(平成28)年4月28日(木)～10月2日(日)  
 ■会場 2階 特別展示室

『在伯同胞活動実況大写真帖』(一九三八年)は、ブラジル移民であった写真家の竹下増次郎が出版した、戦前ブラジル日本移民社会の大ベストセラーで、移民の生活を写真で伝える貴重な記録です。本企画展では、遺族によって保管されていたオリジナルプリント・ガラス乾板等を初公開し、戦前のブラジル日本移民の生活を紹介しますとともに、竹下増次郎の足跡をたどります。



今年はおリンピックイヤー、開催地はブラジルの都市リオ・デ・ジャネイロです。よく言われるように、ブラジルは地球の反対側の国です。日本からもっとも遠い国のひとつといってもいいでしょう。しかしそのブラジルには世界最大の日系人社会があります。現在六世までいるブラジル日系人の源流は約二五万人の日本人移民、そのうち約一九万人が戦前ブラジルに渡りました。

彼らには、自分たちが異国の地で苦勞の未獲得したものや達成したことを、自ら確認し、そして他者からは承認を得たいという欲求がありました。

竹下増次郎(高知県須崎市出身)が撮影・編集した『在伯同胞活動実況大写真帖』は、その欲求に応えるものでした。同書が竹下を、ブラジル日本移民社会を代表する成功者にまで押し上げるほどの大ベストセラーとなった秘密は、そこにあったと考えられます。

日本人が移民として最初にブラジルの

土を踏んだ一九〇八年には、すでに写真は存在しました。つまり写真は、ブラジル日本移民の歴史を、そのはじまりから記録して来たのです。移民船ぶえのすあ いれす丸のサントス港接岸写真を含む写真帖の情報は、移民の経験を明らかにし、後世に伝えるためにも重要な資料であるといえるでしょう。現在、同書は移民として日本人が経験したことのかげがえのない記録にもなっています。



ブラジルで活躍する竹下増次郎とその家族

近年日本では、受け入れる側として「移民」が語られることが増えてきました。かつて日本が世界中に受け入れ先を求めなければならぬ移民送出国だった時代は徐々に遠くなっていますが、日本人移民の経験は、将来の移民受け入れ国という立場からしても、貴重な財産といえるのではないのでしょうか。

『在伯同胞活動実況大写真帖』は、国会図書館をはじめ各地の大きな図書館には所蔵されています。しかしながら多くの場合経年劣化が見られ、写真の状態は決して良好ではありません。本企画展では、竹下増次郎ご子息のご協力により、作品保護の観点から制限付きではありますが、竹下家で保管されてきたプリントを初公開します。現存する写真帖と比べ、より鮮明な画像を見ていただくことができます。その中に、たくさんの高知県出身者を見つけることができるでしょう。同時にそれらのガラス乾板、ブラジルで撮影された写真帖未収録写真、竹下写真館



有名な大木を伐採  
ブラジルでヒゲラ



小嶋利榮氏の農園と家族／吾川郡仁西村出身

ロゴの捺印機なども展示する予定です。

一方で、私たちは、竹下増次郎という人物に興味を惹かれないわけにはいきません。竹下の名前を、戦後の高知を襲った南海大地震の被災写真で知る人も多いはずです。一九六一年には、『高知県郷土観光アルバム』を出版するなど、須崎を中心に、高知県を代表する写真家として生涯活躍しました。

大正時代に建築され、後には近代化遺産としても評価された洋館「竹下写真館」(須崎市／二〇〇四年焼失)のオーナーであった彼は、なぜ一家をあげてブラジルに渡ることになったのでしょうか。ブラジルでどのような生活を送り、『在伯同胞活動実況大写真帖』はどのように着想され、制作されるに至ったのでしょうか。

竹下の個人史、人物像についてはこれまであまり知られていませんでした。竹下増次郎という人物に焦点を当てること、今回の展示が目指すところです。

NPO法人 地域文化資源ネットワーク

中村 茂生

## 自由民権記念館 の収集資料

高知市教育委員会参事 筒井秀一

高知市立自由民権記念館は、二〇一六(平成二八)年三月末で二六年間活動を続けてきたこととなります。設置目的には「自由民権の資料を中心に土佐の近代に関する資料を広く収集・保管・展示して確実に次の世代に引き継いでいくため」とあるように、資料収集保存機関＝博物館としての役割を重視しています。

実際の活動も、自由民権運動に関する資料は高知に関するものに限らず、全国的視野で収集するとともに、土佐の近代史に関する資料を幅広く収集し、さらに資料集・研究書等の充実にも努め、自由民権運動や土佐近代史の調査研究活動に貢献することを目指してきました。

こうして収集した資料は、自由民権記念館収集資料と一般資料に大別し、前者は史料(歴史的に価値があると見なされる資料全般)、家資料(ある特定の家に伝来した資料群)、特設文庫(ある特定の個人又は団体の収集資料群)、特定事項関係資料(ある特定の人物・事件・地区等に関連する資料群)、貴重図書(前記以外で一九四五(昭和二〇)年以前に発行された図書及び



図書室では明治前期の地元新聞を開架しています。

一九四六年以後においても特に貴重と見なされる図書)に分類しています。

「史料」とは、一点あるいは数点の数の少ないものを指します。「家資料・特設文庫」は、まとまった資料群として伝来あるいは収集されたもので、特定事項関係資料は当館で関連付けた資料群です。これらは、整理中のものも含め三二群あります。そして、規模の大きいものについては六冊の資料目録が発刊され、その他は「高知市立自由民権記念館紀要」に掲載されています。(別表)

二〇一五(平成二七)年三月末でこれらの資料が、未整理資料を除き四一、二九九点になります。

後者は、図書(入門書・専門書・資料集・新聞復刻版等)、雑誌、マイクロフィルムが三〇、四六一点となっています。

これらの資料は、ごく一部が常設展示され、大半は収蔵庫で保管し、公開は主に企画展ということになります。

調査研究のためには、閲覧できることが必要になります。一般資料は、一階の「郷土情報室」と二階の「図書室」で対応しています。郷土情報室では、高知県関係の出版物、歴史入門

書、市町村

史等を開架

で閲覧でき

ます。図書

室では、一

部の専門書

などを開架

し、閉架図

書とマイク

ロファイル

ムを請求

によって閲覧

できるようになっ

ています。自

由民権記念館

収集資料につ

いても、担当

者が相談に応

じています。両

スペースとも

無料で自由に

利用ができ

ます。

収蔵資料や

図書は、デー

タベース化

されており、

館内の端末や

インターネット

上で検索する

ことができます。

これからも、

当館は調査

研究の下支

えをしていき

たいと考えて

いますので、

活用をお願い

### 別表

#### 【既刊資料目録】

- 『細川家資料目録』(1996年)
- 『外崎光広文庫目録』(2005年)
- 『松永文庫目録』(2005年)
- 『竹村家資料目録』(2006年)
- 『高知県社会運動関係者目録』(2006年)
- 岡崎精郎・和郎関係資料／小松頼正関係資料／氏原一郎関係資料—
- 『山本憲関係資料目録』(2011年)

#### 【紀要掲載資料目録】

- No.1 「憲政記念館文庫目録(旧高知市憲政記念館蔵書目録)」(1991年)
- No.4 「檀垣家資料目録」(濱口雄幸関係資料) (1995年)
- No.10 「弘瀬家資料目録」(2002年)
- No.13 「片岡家資料目録」(2005年)
- No.16 「飯田家資料目録」(2008年)
- No.17 「堀見熙助関係資料」(2009年)
- No.20 「森下高茂関係資料」
- 「山崎百次郎関係資料」(2012年)
- No.21 「小山家所蔵板垣退助関係資料」(2013年)



郷土情報室には高知の情報が満載です。

# 25周年イベント(秋・冬)報告

## 「路面電車が走る街・高知 写真パネル展」

◆平成27年8月22日(土)〜10月4日(日)  
◆自由ギャラリー

主催 ㈱土佐電ビルサービス

自由民権記念館

共催 とさでん交通㈱

高知の電車とまちを愛する会

高知市立自由民権記念館25周年記念事業として開催しました。

平成27年は高知で路面電車が走り始めて111周年となる年でした。明治期からの路面電車や昭和49年に廃止された安芸線の写真だけでなく、記念乗車券や昭和初期の沿線マップなどの資料、電車に取り付けられていた行先板や方向幕などの電車関連グッズを展示しましたが、会期中に市民の方々からも写真や乗車券などのご提供があり、並べて展示



方向幕も展示しました。

しました。また、鉄道研究家・湯口徹氏からも戦前の写真2点のご協力があり、期間後半に展示しました。

会期中、展覽会場へは遠方からの鉄道ファンも含め2,349名の方々の来場がありました。中には、110年余りにわたる町並みの変化が写り込んだ写真に、いろいろな思いを重ねて見られた方々もおられたようです。

9月19日(土)には、高知近代史研究会第82回研究会を兼ね、高知の電車とまちを愛する会副会長・山本淳一氏による記念講演会「土佐電鉄の今昔」が開催され、122名が来場されました。

講演では、山本氏が土佐電鉄に入社した昭和20年代の話に始まり、写真を見な

から路面電車各種車両の解説、また安芸線の映像を流しながら今は無き鉄道線の思い出や車両の解説がありました。

この展示と講演会を通して、高知の方々の地元の電車への関心の高さを感じました。ご来場の皆様、ありがとうございました。

(田村倫子 高知の電車とまちを愛する会)

### 自由民権講座

### ホンモノの夜学会

昨年度開催し、ご好評いただいた自由民権講座を、本年度も研修室で開催いたしました。

今回は、土佐の代表的な民権家の政治思想をテーマに、全5回シリーズを設定したところ、前回を越えるお申し込みを頂き、のべ人数で270名に参加していただきました。

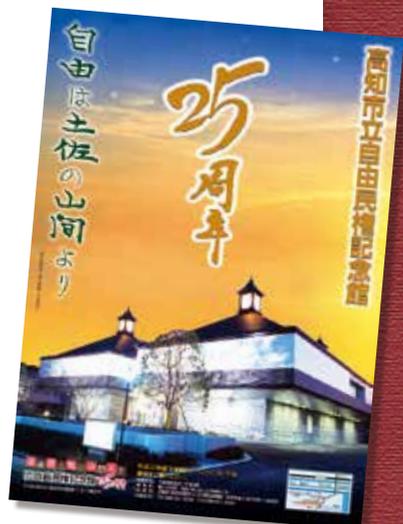
回数	開催日	テーマ
第1回	10/7(水)	植木枝盛 民権思想と憲法案
第2回	10/14(水)	坂崎紫瀾 民権思想の大衆化
第3回	10/21(水)	馬場辰猪 学者職分論
第4回	10/28(水)	中江兆民 『三酔人経綸問答』を読む
第5回	11/11(水)	坂本直寛 『国家本質論』

※時間はいずれも18時30分から20時



事前に沢山のお問合せをいただき、毎回当日の飛び入りでの参加もあり、自由民権運動に対する高知の方々の関心の高さを感じました。

また毎回受講後に、活発な質疑応答も行われ、内容ある充実した講座でした。



# 「人物と風景でたどる土佐の面影」

◆平成27年10月17日(土)～11月23日(月・祝)  
◆自由ギャラリー  
◆来場者…2,563名

25周年記念展「人物と風景でたどる土佐の面影」を開催いたしました。

本展では、明治前半期「自由民権運動のメッカ」であった高知において、自由民権期以降のような風景があつて、また、どのような人々が居合わせたのか、これらの移り変わりを、なつかしい写真やおもしろい写真を中心に、貴重で珍しい資料を織り交ぜてご紹介したものです。以下、展示の概要をお知らせします。



まずは、過去に高知市民図書館が作成した写真パネルを明治から昭和へと時系列に並べ、時代を追って高知市の移り変わりを捉え取れるよう構成しました。

「明治 激動の時代を生きた人々」では板垣退助が片岡健吉や林有造らと写っているものや、立志学舎の生徒達が写っている写真等を、「大正 デモクラシーの雰囲気の中で」では大町桂月や田中貢太郎らの集合写真や大正期の路面電車の写真等、「昭和 成長する高知市」では、戦後から徐々に現在の高知市へと変わっていく風景写真等を展示しましたが、あまりの数にギャラリー内では収まりきれず、一部アトリウムへと広げました。

これに加え、高知県出身の郷土史家を紹介する「平尾道雄と中島及」コーナーや、同じ場所での移り変わりを見比べる「昔さらに昔」コーナーを設置。他にも、高知市を紹介した古い絵葉書や高知で撮影された映画のロケ写真、さらには高知市街図や旅館案内といった古い地図類から、木製の店舗看板類、市内にあったお店のマッチ類や閉店広告まで、個人所蔵の貴重で珍しい資料をお借りし、展示することができました。

会期中にご来場いただいた方々には、懐かしさとともに楽しみながら高知の歴史を振り返っていただけたと思えます。

高知近代史研究会第83回研究会  
四国地域史研究連絡協議会  
第8回 高知大会  
テーマ「四国と戦争」

◆平成27年11月28日(土) 13時～17時  
◆民権ホール ◆来場者…80名

本大会では、2015(平成27)年がアジア・太平洋戦争の敗戦から70年目に当たることから、その節目の年を機に、四国という地域社会と近代日本における戦争との関係を改めて考えてみました。

井上勝生氏からは、近代日本初の対外戦争に「四国」がどのように関わったのかについて講演をしていただくとともに、四国四県の研究者からは、四国と戦争の関わりについて諸相について歴史的な検討をした結果を個別に報告していただきます。



講演する  
井上勝生氏

## 基調講演

▶井上勝生氏(北海道大学名誉教授)  
「埋もれた日清戦争、抗日東学農民戦争と日本のせん滅作戦 -四国と朝鮮、歴史の記憶と史実-」

## 個別報告

- ▶小幡 尚氏(高知海南史学会/高知大学)  
「日清戦争と高知 一戦没者の問題を中心に-」
- ▶川島佳弘氏(伊予史談会/坂の上の雲ミュージアム)  
「日露戦争期における愛媛県の学校林」
- ▶高田美穂氏(徳島地方史研究会)  
「板東俘虜収容所の経済構造とドイツ社会との関係に関する一考察」
- ▶和田 仁氏(香川歴史学会)  
「航空隊の基地・詫間と港町・坂出 -太平洋戦争と香川の町や村-」
- ▶質疑応答

自由民権記念館友の会設立25周年  
高知近代史研究会第84回研究会  
映画上映会  
「100年の絆」  
大逆事件は生きている

◆平成28年1月23日(土)  
①13時30分～15時 ②15時30分～17時  
◆民権ホール ◆来場者…145名

1911(明治44)年、幸徳秋水ら12名が死刑、他12名が無期懲役とされた大逆事件が起こりました。この事件は、その後の研究で明治政府による思想弾圧事件であると評価されるにつれ、2000(平成12)年に当時の中村市議会が「幸徳秋水を顕彰する決議」を採択するなど、各地で犠牲者の名誉回復や顕彰をする活動が生まれ、現在に至っています。

この映画は、事件から100年を超えた今、大逆事件の犠牲者たちが何を考え、何をしようとしたかを明らかにし、各地で起こっている真相解明や名誉回復に関する様々な動きを紹介するとともに、事件に対する日本の文学者達の数少ない反響と当時フランスで起こったドレフュス事件との対比を絡めて見ていくことで、この事件の意味を改めて問い直すものとするものでした。



# 第16回

# 社会科自由研究 作品展報告



● 前期 平成28年1月23日(土)～2月7日(日)  
● 後期 2月9日(火)～2月25日(木)

● 共催 高知市教育研究会社会科部会

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で16回目となります。今回も「歴史」「環境」「地理・文化」など全8分野に数々の力作が出品されました。

小学校36校、中学校2校から合計279点の応募があり、その中から41点を特別賞に選定し、2月6日(土)には表彰式を開催しました。



会場入り口の様子。門と万国旗が出迎えています。



表彰式のアトラクションはマジシャン「まことら」さんの手品で大いに盛り上がりました。

また、会場では開館25周年記念グッズが当たるクイズを行いました。自由民権運動で活躍した人物のイラストがクイズを出すという趣向で、皆さん楽しんでいただき、133名の応募がありました。全問正解者の中から抽選で30名にクリアファイルとバックを、101名にクリアファイルとプレゼントしました。期間中1,396名の皆さんにご覧いただきました。どうもありがとうございました。

## 第16回社会科自由研究作品展 特別賞41作品

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
記念館特別賞	環境	大津小学校	1	元吉 彩乃	こうちのもりからのおくりもの
	地理・文化	高須小学校	1	西内 大翔	ハワイとにほんのちがいがい
	地域・福祉	高知大学教育学部附属小学校	3	野田 要	ぼくの町のマンホールやひょうしき
	体験	大津小学校	4	元吉 優太	平成の伊能忠敬歩測で地図作りに挑戦!
	産業・交通	横浜新町小学校	4	宗光 飛羽	清水サバVS宗田カツオ
	人物	大津小学校	5	戸梶 未彩	植木枝盛
	総合	泉野小学校	6	水江 亮太	7月4日をわすれない～平和を守るために、ぼくができること～
	歴史	西部中学校	2	岡村真理子	戦後70年におもふ～戦時中に“愛称”?～
板垣退助賞	歴史	一ツ橋小学校	3	山村 真慧	ひばあちゃんの家のも道具
		大津小学校	4	長島 晴真	お菓子が教えてくれた高知の歴史
		高須小学校	6	目良 秀真	浦戸城の跡を調べる
		横浜小学校	6	本山 視久	戦争の記憶
夢・人・自由賞	人物	朝倉第二小学校	4	谷脇 璃美	坂本龍馬
		高知大学教育学部附属小学校	4	水谷 恭輔	織田信長を探る
		昭和小学校	6	溝渕 らら	土佐の戦国大名～長宗我部元親～
		潮江東小学校	6	山田 千爽	四国の覇者 長宗我部元親
自由のふるさと賞	環境	第六小学校	3	藤塚 正浩	みんなが使うエネルギー
		潮江南小学校	4	大勝 楓香	清掃施設
		高知大学教育学部附属小学校	4	岩田 悠志	高知市の下水道～ぼくにできること～
		横浜小学校	6	尾崎 果	気温上昇と環境問題

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
立志社賞	産業・交通	小高坂小学校	3	徳平 隆佑	高知家のキッチン
		秦小学校	4	森 泉澄	東京と高知の電車のひかく
		横浜新町小学校	5	池 愛莉	須崎の漁業
		横浜新町小学校	5	細川 悠登	世界のお米
ジョン万次郎賞	体験	高須小学校	2	福田 紗也	ゴリをつかまえるコツとそこで出あった生きもの
		三里小学校	2	山崎 陽生	はるきの旅日記(2015年夏休み)
		横浜小学校	5	藤本 そら	ダンスで元気を届けます
		横浜新町小学校	6	河添 透和	あこがれの保育士のお仕事体験レポート
植木枝盛賞	地理・文化	行川小学校	3	宇川 拓社	四国4けんなんでもちようさ
		第六小学校	3	岡崎 文香	世界遺産 琉球王国のグスク及び関連遺産群
		秦小学校	5	増井 萌乃	愛媛県と高知県の違い調べ
		初月小学校	6	三好 春菜	高知のよさこいみてみいや!
自由のともじび賞	地域・福祉	高須小学校	2	西森 柚音	いろいろなかお
		高知大学教育学部附属小学校	2	三宮 千宙	がんばれ中ノはししょうてんがい
		潮江南小学校	5	宮田 陽佳	高知県の図書館調べ
よさこい民権賞	総合	介良小学校	6	前野 希和	わたしたちの生活と税
		はりまや橋小学校	1	井上 哲周	ダムについて
		昭和小学校	3	横山 大明	五台山ミニ88か所の旅
		高須小学校	5	川下 陽菜	選挙?
		高知大学教育学部附属小学校	6	島田 幸明	新聞のコラムの名前
		昭和小学校	6	森岡 拓斗	戦後70年僕が見た戦争の遺跡

# 図書紹介

## ◆新発見! 『馬場辰猪日記』 『馬場辰猪日記と遺稿』刊行に寄せて

川崎 勝 (元南山大学教授)

二〇一五年一〇月三〇日、慶應義塾大学出版会から『馬場辰猪日記と遺稿』(杉山伸也 川崎勝編)が出版されました。本書は『馬場辰猪全集』(全四巻:岩波書店、一九八八・八九年)刊行後に発見された史料と最新の評伝で構成されています。この刊行を記念して、川崎氏に寄稿していただきました。

一八八二年(明治一五)六月二日

「今日板垣エ往ク 傷ヲ負タル故ニ同人モ余程ヤセタル有様ナリ 大石片岡植木ニモ同氏ノ旅宿ニ在リ」

六月四日

「今日中江ガ新聞ニ助力スルヲ約ス」

八月二五日

「今日五藤象二郎宅ニ至ル 板垣洋行ノコトラ聞キ 大石君ト余ハ大ニ異論ヲ唱ヘタリ」

八月二九日

「板垣ニ逢テ洋行ノ不可ナルヲ忠告ス 島本仲道中江篤介ハ臨席ナリ」

新発見された『馬場辰猪日記』(一八八二年、一八八四年、一八八五年)の記述の一



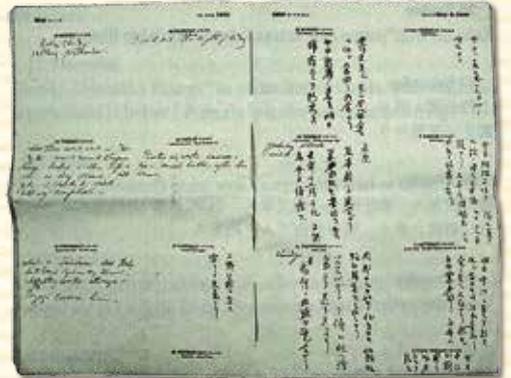
部である。馬場辰猪は、一八八一年一〇

月、議長代理として自由党を結成に導いた。その後病魔に取り憑かれて、横浜十全病院、東京大学附属病院に入院、翌年五月三〇日に退院し、「万事新シク見ユルナリ」と新たな心境のもとに、自由党の活動に邁進していった。退院の直後、岐阜で遭難した板垣退助が上京、面会した。馬場の活動の手始めは『自由新聞』の発刊であった。『自由新聞』は、自由党総理の板垣が社長となり、中江兆民らを招聘して、六月二五日に創刊された。馬場は、兆民の協力を得て、七月一日から「本論」連載を開始した。前途洋々たる自由党の抱負が見られる。

しかし、八月下旬に、板垣の洋行が表沙汰になり、いわゆる「自由党の内訌」がはじまった。馬場は、船出したばかりの船の船頭が不在となれば、党の弱体化に繋がるとし、さらに洋行費用に疑惑もあり、徹底して反対を唱えた。

馬場らは『自由新聞』を追われ、党役員も辞任し、板垣は洋行する。その後のことは、周知のことであろう。

『馬場辰猪日記』の記述は、まさに初期



1882年5月22日~6月4日  
(三菱経済研究所付属三菱史料館所蔵)

自由党の、船出と最初の危機の、当事者による初めての証言である。

さらに、馬場のアメリカ行きも分かった。出発が、爆発物取締罰則違反の嫌疑での勾引が解かれた直後であったため、「亡命」といわれた。しかし、その一年以上前にアメリカ行きを決めていたのである。「日本最初の亡命者」は、悲劇的人物像にはびったりではあるが、しかし、そうではなくとも、馬場の魅力が損なうものではない。むしろ、アメリカの地から、「頼む所は天下の輿論、目指す響きは暴虐政府」と孤高の闘いを挑もうとしたことこそ、馬場の魅力がある。

新発見の『馬場辰猪日記』は、馬場の最期を看取った岩崎久弥の遺品(三菱史料館蔵)の中にあつた。このほか、戊辰戦争の頃を題材にした物語「悔悟(不悔悟)」も見つかり、「日記」の記述から、一八八五年一二月の『朝野新聞』の無署名論説「史

論」が馬場の論考であることも確定されたのである。これも今まで知ることのできなかった馬場の一面であり、多くの土佐の人々をはじめ、人的交流も知ることができる。また、先きに見つかっていた、保安条例を批判した投書「日本の内閣(The Japanese Cabinet)」も収録した。これには、「特別の友人」として久米弘行と片岡健吉の名も見える。

「日記」の翻刻に当たって、可能な限り人物を特定することに勉め、多くの事項とともに詳細な註を付け、新出史料には、詳しく解題した。

さらに、杉山伸也氏が新たな馬場像を『馬場辰猪伝』として書き下ろしている。また、『馬場辰猪全集』以降の研究成果を踏まえて、「年譜」も全面的に改定した。

本書は、馬場の思想と行動を、自由民権運動、日本近代史に、あらためて位置づける記念碑となるであろう。

## 土佐人名



「日記」に登場する土佐人(五十音順)  
馬場の土佐人脈の一端が分かります。

- 伊賀陽太郎 板垣退助 岩崎久弥 岩崎弥太郎 植木枝盛 衣斐毅太郎 大石正巳 大高坂秀之 奥宮健之 小島竜太郎 小野梓 垣内正輔 片岡健吉 久米弘行 後藤象二郎 島本仲道 杉本清寿 竹内綱 谷重喜 谷干城 豊川良平 中江篤介 野崎権治郎 野崎左文 古沢滋 春吉 山田平左衛門

## 館蔵資料出展のご案内

本年4月23日(土)から6月19日(日)まで、東京・紀尾井町で開催される『Volez, Volez, Voyages - Louis Vuitton (空へ、海へ、彼方へ - 旅するルイ・ヴィトン)』展に、板垣退助が洋行中にパリで購入したトランクを出展します。

このトランクは板垣のご子孫である小山家が、アジア・太平洋戦争中も大切に守ってきたもので、わが国に残存している最も古いルイ・ヴィトン社製のトランクの一つです。2011(平成23)年7月、当館

に寄託されました。

板垣退助は1882(明治15)年11月1日から翌年6月22日まで欧州を外遊し、パリには12月27日に到着しています。ルイ・ヴィトン社には創業当時の顧客台帳が大切に保管されており、板垣が購入した記録も残っています。

今回のトランクの展示は、日本とフランスの歴史的な結びつきを示す、大変注目を浴びるものになると思われま



## 行事予定

### 講演案内

板垣退助岐阜遭難134年記念講演会  
高知近代史研究会第86回研究会

日時：4月9日(土) 15:00～17:00  
会場：民権ホール

### 「近代日本政党史上における板垣退助」

講師：真辺美佐氏

(宮内庁書陵部主任研究官・高知県出身)

ここ数年、「支持する政党がない」と答える無党派層が増え続け、「政党」そのものの存在意義が問われる時代となっています。「政党」を日本で初めて創り、根付かせたのは、他ならぬ板垣退助です。なぜ板垣は日本の政治に「政党」が必要だと考え、どのような「政党」をつくり、党首としてどのような指導をしたのでしょうか。また、それは時代とともに変化したのでしょうか。今回の講演では、板垣の政党論と政党指導を追い、「政党」の原点を探ります。

主催：NPO法人 板垣会・自由民権記念館・高知近代史研究会

4月28日(木)～10月2日(日)

### ■ 企画展「『在伯同胞活動実況大写真帖』 —竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す—

県内外連携企画「高知の移民文化発信プロジェクト—海を渡った高知スピリット—」の一環として開催します。

会場：2階特別展示室 ※常設展観覧券が必要です。

4月29日(金・祝) 15:10～17:00

### ■ 自由民権記念館友の会総会・記念講演会

「自由な土佐の言論人・民権運動を各地で指導」(仮)

氏原和彦氏(高知市環境政策課長・元当館学芸係長)

会場：研修室 ※友の会総会 13:30～

7月16日(土) 15:10～17:00

### ■ 企画展「『在伯同胞活動実況大写真帖』

—竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す— 記念講演

高知近代史研究会第87回研究会

「『在伯同胞活動実況大写真帖』が伝えるもの

—ブラジル日本移民の精神誌—

中村茂生氏(NPO法人地域文化資源ネットワーク)

会場：研修室

7月22日(金) 9:30～12:00

### ■ 夏休み子ども歴史教室

小中学生が、自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦。

会場：館内 ※学校からの申込が必要です。

## 平成28年4月1日から指定管理者が変わります。

当館は、平成22年4月より施設管理業務に指定管理者制度を導入しています。平成28年3月に第2期の指定期間が終了することから、昨年、次期指定管理者を募集。審査の結果、4月1日より新たに、イヨテツケーターサービス(株)が指定管理者となります。

指定管理者は施設・設備の使用許可や維持管理に関する業務のほか、自主企画としての企画展やイベントの実施など、自由民権記念館を盛り立てていくパートナーとなりますので、引き続き、よろしくお願ひいたします。

なお、学芸企画業務はこれまで同様に高知市が直営で行ってまいります。

### ごあいさつ イヨテツケーターサービス株式会社

この度、高知市立自由民権記念館第3期の指定管理者に選定いただきました。弊社は「人の未来に尽くす企業」を目指しており、指定管理者としては愛媛県内の8施設(歴史・文化施設や児童館)を運営いたしております。また、第1期の運営経験を基に、「資料・学芸員と来館者をつなぐ役割を担う」ことを目的とし、近代日本史を語るには欠かすことのできない我が国初の民主主義運動の象徴たる本施設へ、より多くの方が足を運んでいただけるような施設運営に努めてまいりますので、皆様方のますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



自由のともしび  
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより vol.80

発行 2016(平成28)年3月31日 発行人 松岡信一

発行所 〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306

自由のともしび (Vol.60から) がホームページでご覧いただけます。